

柔道整復師を養成する大学と専門学校の学生の意識調査の比較

— 2014年度新入生 —

A Research in the Attitude of a comparison between university and technical school for training students to be Judo Therapist

— Freshman in 2014 —

体育学部健康科学科
廣瀬 文彦
HIROSE, Fumihiko
Department of Health Science
Faculty of Physical Education

体育学部健康科学科
猪越 孝治
INOKOSHI, Takaharu
Department of Health Science
Faculty of Physical Education

体育学部健康科学科
松村 智弘
MATSUMURA, Tomohiro
Department of Health Science
Faculty of Physical Education

体育学部健康科学科
飯出 一秀
IIDE, Kazuhide
Department of Health Science
Faculty of Physical Education

キーワード：柔道整復師，大学，専門学校，国家試験，アスレティックトレーナー

I. はじめに

公益社団法人全国柔道整復学校協会ホームページ(2014)によると、柔道整復師(以下柔整師)養成所は1998年までは専門学校14校であった。専門学校数は1999年に福岡医療専門学校が開学した後に増加していき、2014年4月現在96校である。一方、大学は2004年に明治鍼灸大学(現明治国際医療大学)が初めて開学した後に増加していき2014年4月現在、大学15校、短期大学1校である。

これまでに、廣瀬(2009)は柔道整復師を養成する大学の学生の意識調査を行ない、さらに、廣瀬ら(2014)は体育学部で柔道整復師を養成する大学の学生の意識調査を行なった。その結果、大学と専門学校ではそれぞれに所属する学生の意識が異なるのではないかと考えた。

IPU・環太平洋大学体育学部健康科学科は、2012年4月に大学としては12番目に開設された。大学の公式ホームページによると「健康運動指導士、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、柔道整復師等の資格取得を目指し、統合医療・健康科学の深い知識

を習得することで統合医療の一端を担う人材を養成する大学」という目標を掲げている。

本研究で大学と比較をする専門学校としてIPU・環太平洋大学の系列校である日本健康医療専門学校柔道整復師学科を選んだ。専門学校の公式ホームページによると「伝統医術と西洋医術を学び、骨折、脱臼、捻挫等の施術法を身につけること」を目的として2002年4月に開設された。

上記2校の違いは、専門学校と比べて大学の修学年数が1年多いことで取得できる資格の選択肢を増やしていることが挙げられる。そのために、それぞれの学校を選択した学生の将来の職業への意識は異なると思われる。

そこで、本調査は2014年度のIPU・環太平洋大学体育学部健康科学科新入生および日本健康医療専門学校柔道整復学科新入生に対して意識調査を行ない、教育内容向上および進路指導の参考にすることを目的とした。

II. 方法

1. 対象者

2014年度のIPU・環太平洋大学体育学部健康科学科新入生（以下IPU新入生）52名および日本健康医療専門学校柔道整復学科新卒新入生（以下日健新入生）74名を対象に質問紙を用いてアンケート調査を行なった。アンケート調査はIPU新入生に対して前期授業開始時（平成25年4月11日）に行ない、日健新入生に対して調査担当者が来校した日（平成25年5月7日）に行なった。回収をした内容で曖昧な回答がある場合は面接によって本人に確認をした。アンケート結果は教育・研究目的以外には使用せず、回答は任意であること、個人は特定されないことを調査対象者に説明した。

2. アンケート項目

① 学生の特徴について

入学前の所属先、出身高等学校の所在している県、部活動所属状況などを質問した。

② 柔道整復師業務について

接骨院の通院経験の有無、卒業後すぐに勤務を希望している場所、最終的な接骨院の開業の希望の有無、実家が接骨院であるかを質問した。

③ トレーナーについて

スポーツでの傷害経験の有無、トレーナー業務希望の有無、スポーツ選手治療希望の有無を質問した。

3. 統計処理

調査結果の関連をみるために、Microsoft Excelのアドインソフト「エクセル統計2012」（株式会社社会情報サービス）を用いてカイ2乗検定を行なった。有意水準は5%未満とした。

III. 結果

1. 学生の特徴について

IPU新入生の男女構成は男子45人（87%）、女子7人（13%）であり、日健新入生の男女構成は男子60人（81%）、女子14人（19%）であった。

IPU新入生、日健新入生ともに全員が2014年3月に高等学校を卒業した新卒生であった。

2. 柔道整復師業務について

接骨院通院経験の有無と卒業後の接骨院就職希望の有無および将来の接骨院開業希望の有無について関連性を見るためにカイ2乗検定を用いて検定した結果、日健新入生の接骨院通院経験の有無と卒業後の接骨院就職希望の有無のみ有意に差があった（ $\chi^2=9.030$, $df=1$, $p<.05$ ）。この結果と残差を見ると、接骨院通院経験ありの人が卒業後の接骨院就職希望をしていることが多いと解釈することができる。（表1-3）それ以外の関連性について有意な差は認められなかった。（表1-1）（表1-2）（表1-4）

さらに実家が接骨院を営んでいる学生はIPU新入生、日健新入生ともに0人（0%）であった。

表1-1 接骨院通院経験と卒業後の接骨院就職希望のクロス表（IPU新入生）

| 通院経験 | 卒業後の接骨院就職希望 | | | 合計 |
|------|-------------|------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 64.4 | 35.6 | 100 |
| | n | (29) | (16) | (45) |
| 無し | % | 71.4 | 28.6 | 100 |
| | n | (5) | (2) | -7 |

n.s.

表1-2 接骨院通院経験と将来の接骨院開業希望のクロス表（IPU新入生）

| 通院経験 | 将来の接骨院開業希望 | | | 合計 |
|------|------------|------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 60.0 | 40.0 | 100 |
| | n | (27) | (18) | (45) |
| 無し | % | 28.6 | 71.4 | 100 |
| | n | (2) | (5) | (7) |

n.s.

表1-3 接骨院通院経験と卒業後の接骨院就職希望のクロス表（日健新入生）

| 通院経験 | 卒業後の接骨院就職希望 | | | 合計 |
|------|-------------|------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 79.7 | 20.3 | 100 |
| | n | (55) | (14) | (69) |
| 無し | % | 20.0 | 80.0 | 100 |
| | n | (1) | (4) | (7) |

$\chi^2=9.030$, $df=1$, $p<.05$

表1-4 接骨院通院経験と将来の接骨院開業希望のクロス表（日健新入生）

| 通院経験 | | 将来の接骨院開業希望 | | 合計 |
|------|---|------------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 47.8 | 52.2 | 100 |
| | n | (33) | (36) | (69) |
| 無し | % | 20.0 | 80.0 | 100 |
| | n | (1) | (4) | (7) |

n.s.

3. トレーナーについて

スポーツ傷害経験の有無とトレーナー業務希望の有無およびスポーツ選手治療希望の有無について関連性を見るためにカイ2乗検定を用いて検定した結果、有意差は認められなかった。(表2-1)(表2-2)(表2-3)(表2-4)

表2-1 スポーツ傷害経験とトレーナー業務希望のクロス表（IPU新入生）

| 通院経験 | | 卒業後の接骨院就職希望 | | 合計 |
|------|---|-------------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 49.0 | 51.0 | 100 |
| | n | (24) | (25) | (49) |
| 無し | % | 33.3 | 66.7 | 100 |
| | n | (1) | (2) | (3) |

n.s.

表2-2 スポーツ傷害経験と将来のスポーツ選手治療希望のクロス表（IPU新入生）

| 通院経験 | | 将来の接骨院開業希望 | | 合計 |
|------|---|------------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 81.6 | 18.4 | 100 |
| | n | (40) | (9) | (49) |
| 無し | % | 100 | 0 | 100 |
| | n | (3) | (0) | (3) |

n.s.

表2-3 スポーツ傷害経験とトレーナー業務希望のクロス表（日健新入生）

| 通院経験 | | 卒業後の接骨院就職希望 | | 合計 |
|------|---|-------------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 47.2 | 52.8 | 100 |
| | n | (34) | (38) | (72) |
| 無し | % | 0 | 100 | 100 |
| | n | (0) | (2) | (2) |

n.s.

表2-4 スポーツ傷害経験と将来のスポーツ選手治療希望のクロス表（日健新入生）

| 通院経験 | | 将来の接骨院開業希望 | | 合計 |
|------|---|------------|-------|------|
| | | 希望する | 希望しない | |
| 有り | % | 72.2 | 27.8 | 100 |
| | n | (52) | (20) | (72) |
| 無し | % | 0 | 100 | 100 |
| | n | (0) | (2) | (2) |

n.s.

IV. 考察

1. 学生の特徴について

本研究の調査対象者のIPU新入生は2014年4月に入学をした52人全員を対象とした。一方、日健新入生は2014年4月に入学をした101人中74人の新卒生を対象とした。日健新入生の社会人経験者や大卒者は職業に対する意識が新卒生とは異なると考えたため、今回は比較対象者から除外した。

2. 柔道整復師について

柔道整復師資格を取得する動機として、自身の接骨院通院経験が影響している印象がある。

本研究の結果では、日健新入生の接骨院通院経験が卒業後の接骨院就職希望のみ関連があるという結果であった。

厚生労働省のホームページ(2014)によると柔道整復師資格を有している者のおよそ70%が接骨院で業務を行っており、およそ50%が院長となっている。

この結果より、遠い将来のことはまだわからないが、卒業後といった近い将来に関しては大学生より専門学校生の方が現実を理解して入学してきたと考える。

3. トレーナーについて

トレーナー業務またはスポーツ選手の治療を希望する動機として、自身のスポーツ傷害経験が影響している印象がある。

本研究の結果では、IPU新入生、日健新入生ともにそれらの関連はみられなかった。

本研究の対象とした大学・専門学校はスポーツを前面に出した広報活動を展開している。おそらく、その影響でスポーツ傷害経験者が多数入学してきていると思われる。特にオープンキャンパスに参加した学生は大学・専門学校の教員のみならず、在校生からも学校についての情報を得ることができる。そこで、スポー

ツ選手に関わることに興味を持つが、現実に職業としてトレーナー業務やスポーツ選手の治療を行っていくことは難しいことであると感じたことが本調査の結果に現れたと考える。

今後は、大学・専門学校に入学した動機と併せて検討をしていく必要がある。

V. 結論

1. 専門学校生は大学生より就職に対する意識が高い可能性がある。
2. 新入生は高校時代に受けた大学、専門学校の広報活動でトレーナーについての情報を得ている可能性がある。
3. 今後も本研究の対象者を追跡してアンケート調査を行っていき、教育内容向上および進路指導につなげる必要がある。

参考文献・参考資料

- ・公益社団法人全国柔道整復学校協会ホームページ、アクセス日2014年11月26日
- ・厚生労働省ホームページ、アクセス日2014年11月26日
- ・廣瀬文彦 (2009), 大学柔道整復学科新入生の意識調査, 帝京大学 スポーツ医療研究, 創刊号, pp.33-38.
- ・廣瀬文彦, 前原亜美, 松村智弘, 河合洋二郎, 簗戸崇史, 井上陽子 (2014), 柔道整復師を養成する大学の学生の意識調査, 環太平洋大学研究紀要, 第8号, pp.265-270.